

令和2年度安曇野市上下水道事業 予算概要

I 水道事業予算概要

1 業務量 (予算書 2ページ)

業務の予定量	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
給水戸数(戸)	40,100	40,100	0	0.0%
年間総給水量(千m ³)	9,600	9,605	△5	△0.1%
一日平均給水量(m ³)	26,301	26,315	△14	△0.1%

人口減少や節水型社会の進展に伴い給水人口と給水量は減少傾向にある一方で、世帯数の増加に伴い給水戸数は増加傾向にあるため、給水戸数の予定業務量は40,100戸に据え置き、年間総給水量は960万m³を見込みます。

2 収益的収支(予定損益計算書) (予算書 2ページ、4ページ、16ページ、24~31ページ)

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表します。

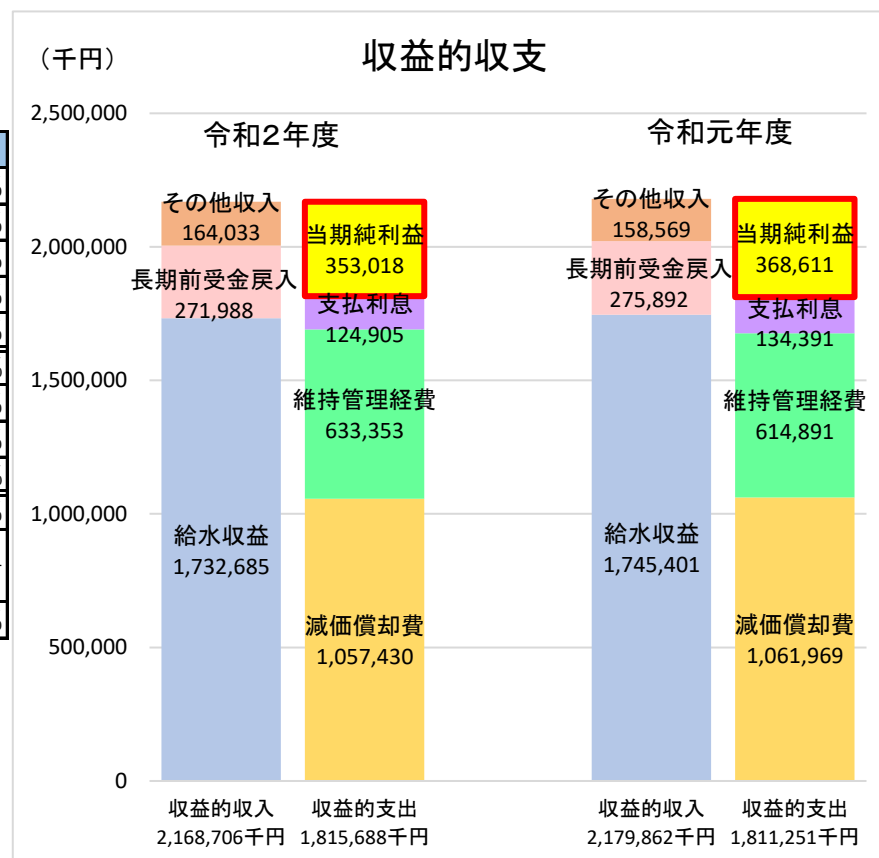
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
営業収益	1,894,646	1,901,952	△7,306	△0.4%
うち給水収益	1,732,685	1,745,401	△12,716	△0.7%
営業外収益	274,060	277,910	△3,850	△1.4%
うち長期前受金戻入	271,988	275,892	△3,904	△1.4%
収益計①	2,168,706	2,179,862	△11,156	△0.5%
営業費用	1,685,085	1,671,170	13,915	0.8%
うち減価償却費	1,057,430	1,061,969	△4,539	△0.4%
営業外費用	130,603	140,081	△9,478	△6.8%
費用計②	1,815,688	1,811,251	4,437	0.2%
経常損益①-②	353,018	368,611	△15,593	△4.2%
特別損益 (特別利益-特別損失)	0	0	0	-
純損益(当期純利益)	353,018	368,611	△15,593	△4.2%

収益は21億6,870万6千円で、主に給水収益の減少のため、1,115万6千円の減額を見込みます。

費用は18億1,568万8千円で、減価償却費や支払利息が減少しますが、新規に水源等老朽化診断や濁水対策事業等を実施するなど維持管理経費が増加することから、443万7千円の増額を見込みます。

純損益は1,559万3千円減少し、3億5,301万8千円の黒字を見込みます。



3 資本的収支 (予算書 2ページ、5ページ、32~35ページ)

水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

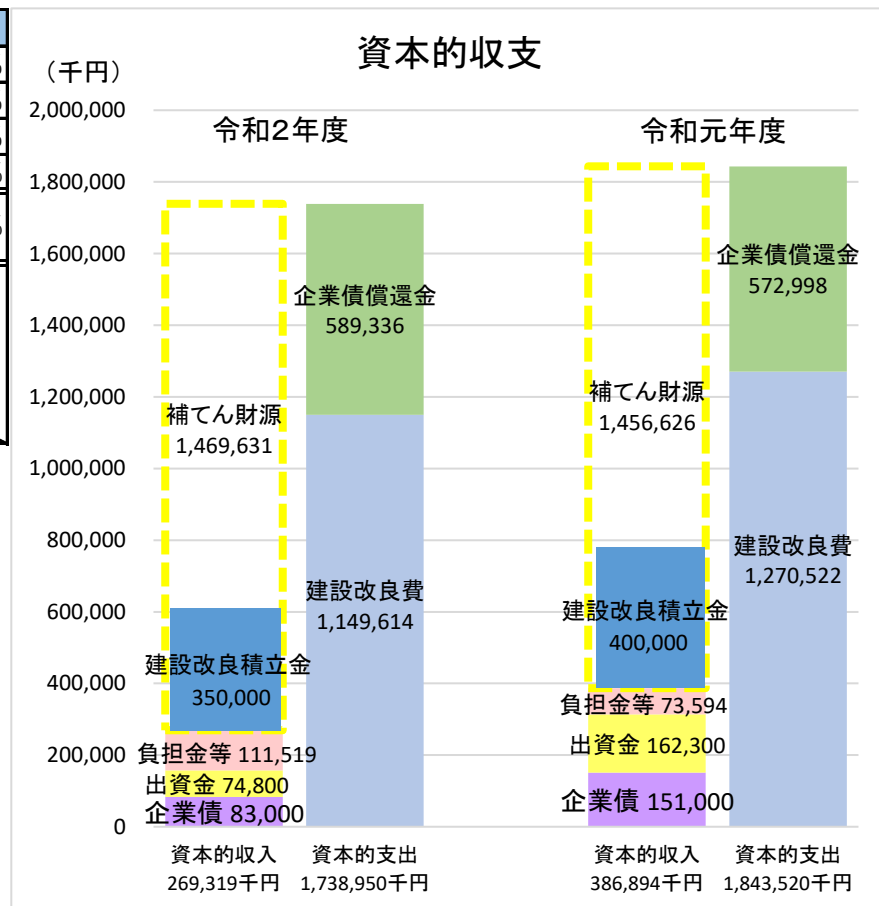
資本的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
資本的収入(a)	269,319	386,894	△117,575	△30.4%
うち一般会計出資金	74,800	162,300	△87,500	△53.9%
資本的支出(b)	1,738,950	1,843,520	△104,570	△5.7%
うち企業債償還金	589,336	572,998	16,338	2.9%
資本的収支不足額 (a) - (b)	△1,469,631	△1,456,626	△13,005	0.9%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	94,232	87,892		
損益勘定留保資金(※1)	1,025,399	968,734		
建設改良積立金	350,000	400,000		

令和2年度も主要管路整備導・配水管布設替工事及び豊科・明科地域整備事業を重点施策として実施しますが、建設改良費が減少するため企業債や一般会計出資金が減少し、資本的収入は2億6,931万9千円で、資本的支出は17億3,895万円を見込みます。

資本的収支不足額14億6,963万1千円は、損益勘定留保資金10億2,539万9千円、建設改良積立金3億5,000万円の取り崩しなどで補てんします。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



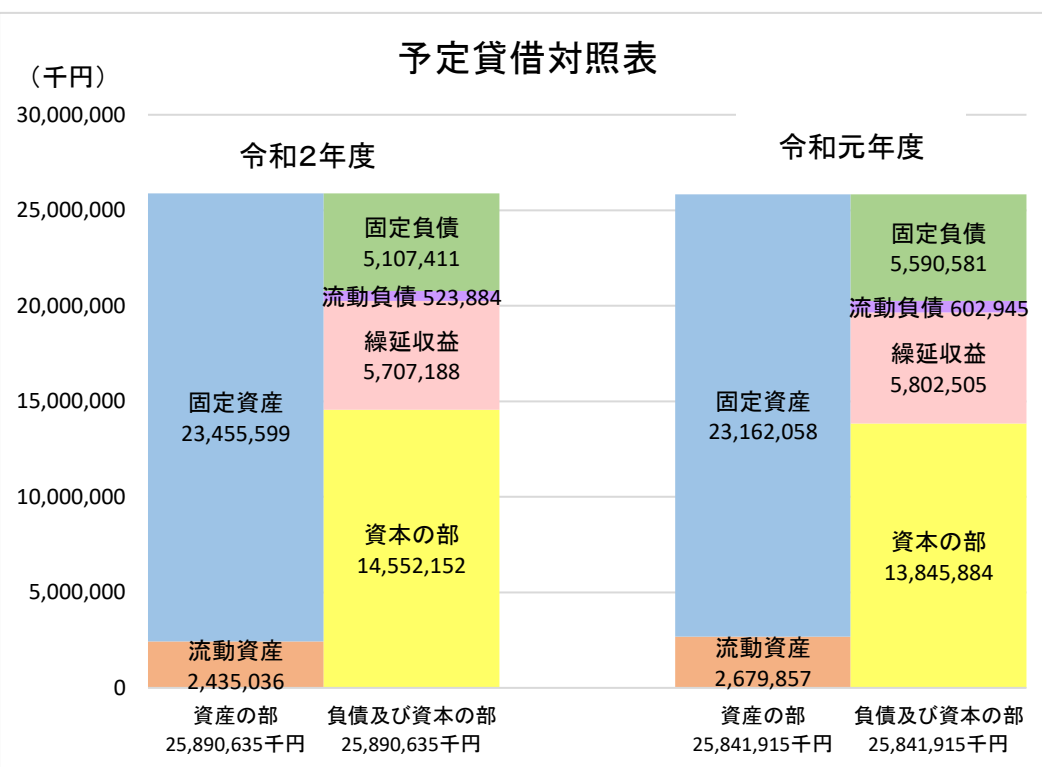
4 予定貸借対照表 (予算書 18~19ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
資産	25,890,635	25,841,915	48,720
固定資産	23,455,599	23,162,058	293,541
流動資産	2,435,036	2,679,857	△ 244,821
うち現金	2,395,333	2,640,580	△ 245,247
負債	11,338,483	11,996,031	△ 657,548
固定負債	5,107,411	5,590,581	△ 483,170
うち企業債	5,107,411	5,590,581	△ 483,170
流動負債	523,884	602,945	△ 79,061
うち企業債	511,908	591,001	△ 79,093
繰延収益	5,707,188	5,802,505	△ 95,317
資本	14,552,152	13,845,884	706,268
資本金	12,257,896	11,031,496	1,226,400
剰余金	2,294,256	2,814,388	△ 520,132
資本剰余金	193,990	194,019	△ 29
利益剰余金	2,100,266	2,620,369	△ 520,103
負債+資本 計	25,890,635	25,841,915	48,720

固定資産残高が増加し、資産の部が4,872万円の増額となる見込みです。また、負債の部では企業債の償還額が借入額を上回るため、企業債残高は56億1931万9千円となり、5億6,226万3千円減少する見込みです。



5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 6ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

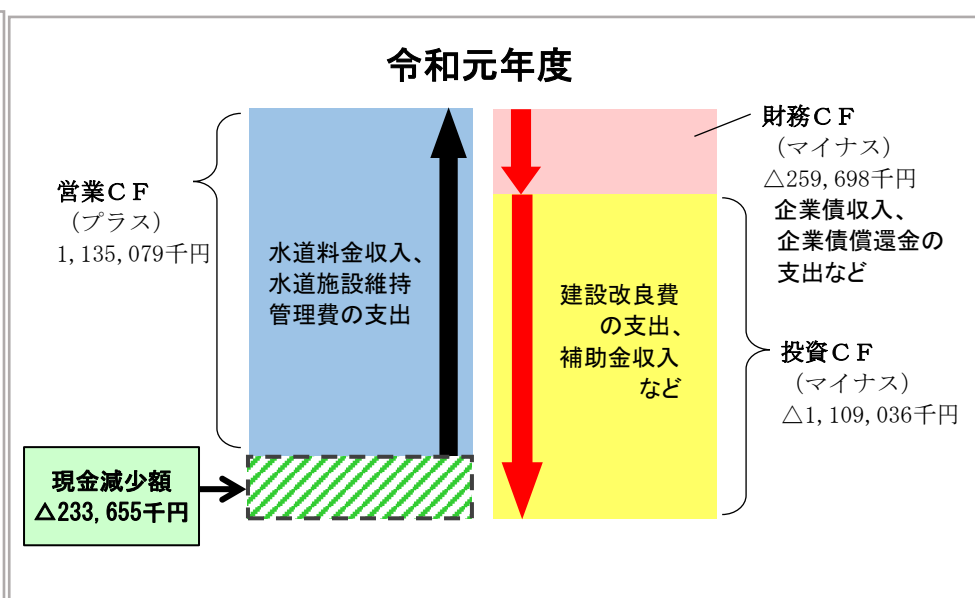
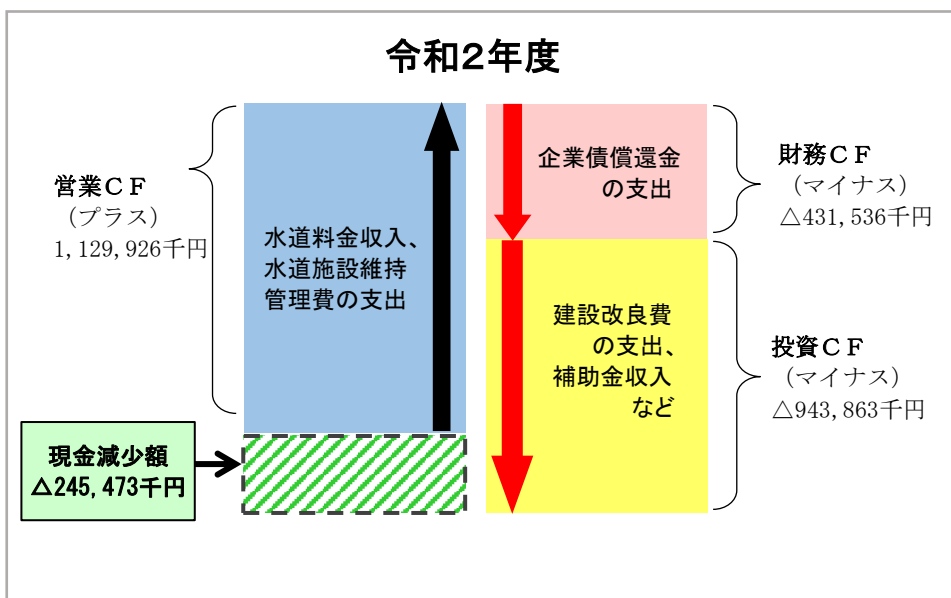
投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。

財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,129,926	1,135,079	△ 5,153
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 943,863	△ 1,109,036	165,173
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 431,536	△ 259,698	△ 171,838
現金増減額	△ 245,473	△ 233,655	△ 11,818
現金期首残高	2,640,806	2,874,235	△ 233,429
現金期末残高	2,395,333	2,640,580	△ 245,247

営業活動による現金収入は11億2,992万6千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は9億4,386万3千円で、主要管路整備導・配水管布設替工事、豊科・明科地域整備事業等の建設改良工事費を支出します。財務活動による現金支出は4億3,153万6千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、23億9,533万3千円となる見込みです。



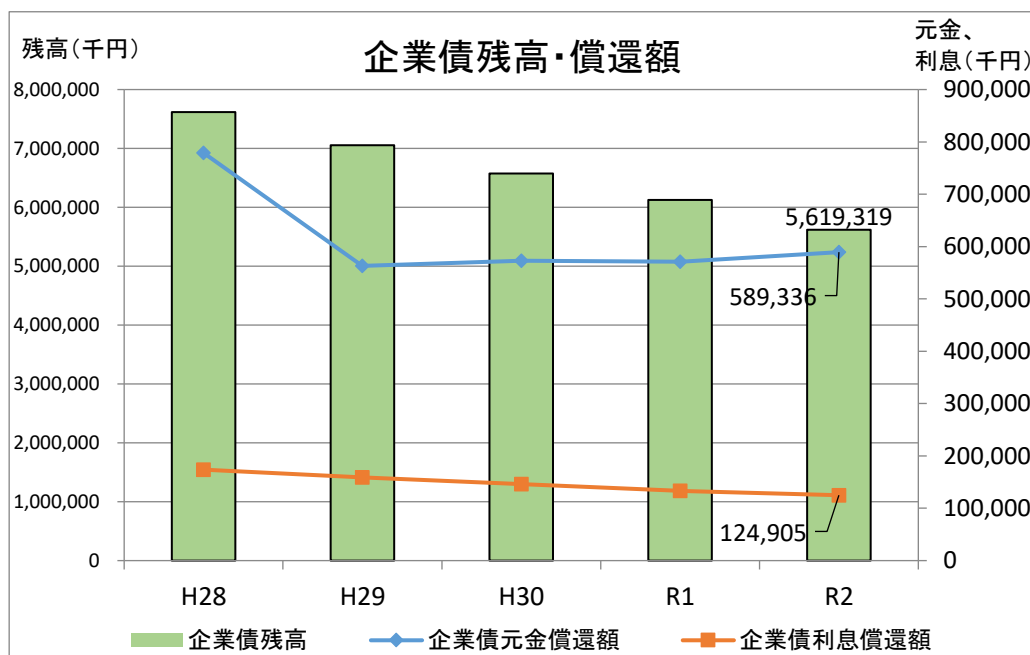
6 企業債

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
借入額	83,000	151,000	△ 68,000
企業債元金償還額	589,336	572,998	16,338
企業債利息償還額	124,905	134,391	△ 9,486
企業債年度末残高	5,619,319	6,181,582	△ 562,263

令和2年度は管路の耐震化等の財源を確保するために、8,300万円の企業債を新たに借り入れる予定です。

また、5億8,933万6千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は56億1,931万9千円となる見込みです。



II 下水道事業予算概要

1 業務量 (予算書 38ページ)

業務の予定量	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
排水戸数(戸)	31,000	31,000	0	0.0%
年間汚水量(千m ³)	8,300	8,588	△ 288	△ 3.4%
一日平均汚水量(m ³)	22,739	23,528	△ 789	△ 3.4%

接続率の向上により排水戸数は増加傾向にあるが、水道事業で給水量が減少傾向にあるため、汚水量の増加率は鈍く、排水戸数の予定業務量は31,000戸に据え置き、年間汚水量は830万m³を見込みます。

2 収益的収支(予定損益計算書) (予算書 38ページ、40ページ、52ページ、60~69ページ)

使われた汚水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。
下水道に流された汚水を処理する費用がどのくらいかを表します。

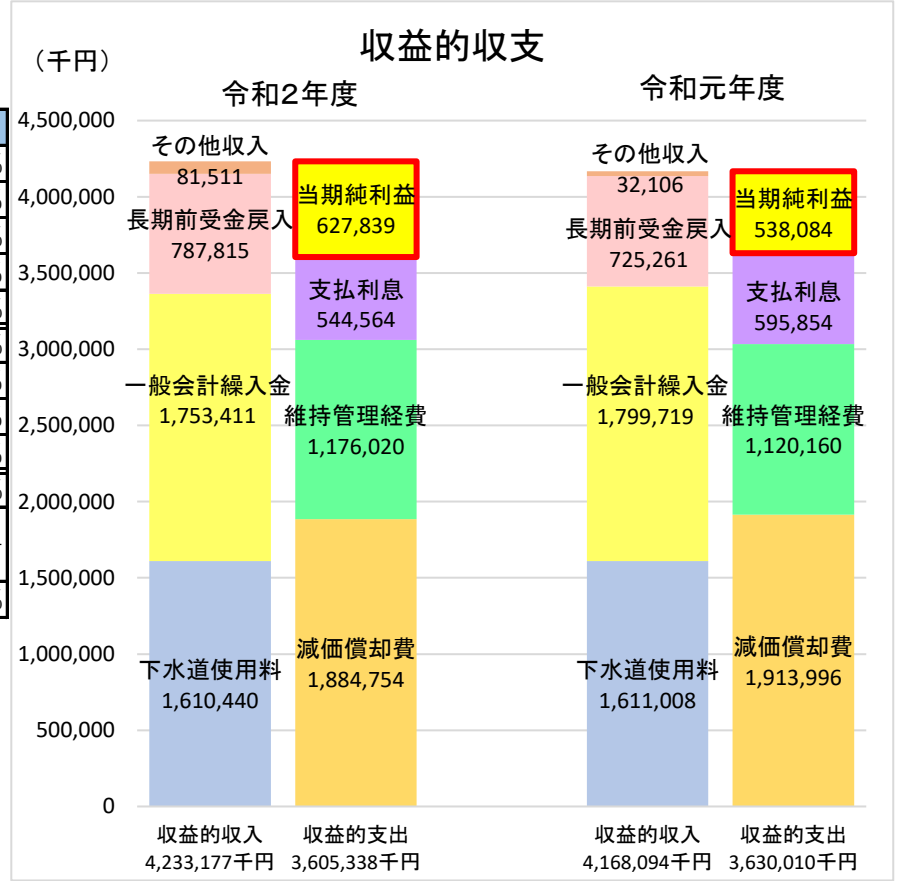
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
営業収益	1,643,497	1,640,981	2,516	0.2%
うち下水道使用料	1,610,440	1,611,008	△ 568	△ 0.1%
営業外収益	2,589,680	2,527,113	62,567	2.5%
うち一般会計繰入金	1,753,411	1,799,719	△ 46,308	△ 2.6%
収益計 ①	4,233,177	4,168,094	65,083	1.6%
営業費用	3,055,441	3,033,664	21,777	0.7%
うち減価償却費	1,884,754	1,913,996	△ 29,242	△ 1.5%
営業外費用	549,897	596,346	△ 46,449	△ 7.8%
費用計 ②	3,605,338	3,630,010	△ 24,672	△ 0.7%
経常損益 ①-②	627,839	538,084	89,755	16.7%
特別損益 (特別利益-特別損失)	0	0	0	-
純損益(当期純利益)	627,839	538,084	89,755	16.7%

収益は42億3,317万7千円で、下水道使用料の減少が見込まれますが、長期前受金戻入と流域下水道維持管理負担金精算金の増加により、6,508万3千円の増額を見込みます。

費用は36億533万8千円で、処理場統廃合接続基本設計やストックマネジメント計画策定業務、流域下水道維持管理負担金などが増加しますが、減価償却費及び支払利息の減少によって、2,467万2千円の減額を見込みます。

純損益は8,975万5千円増加し、6億2,783万9千円の黒字を見込みます。



3 資本的収支 (予算書 38ページ、41ページ、70~73ページ)

下水道施設の整備を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

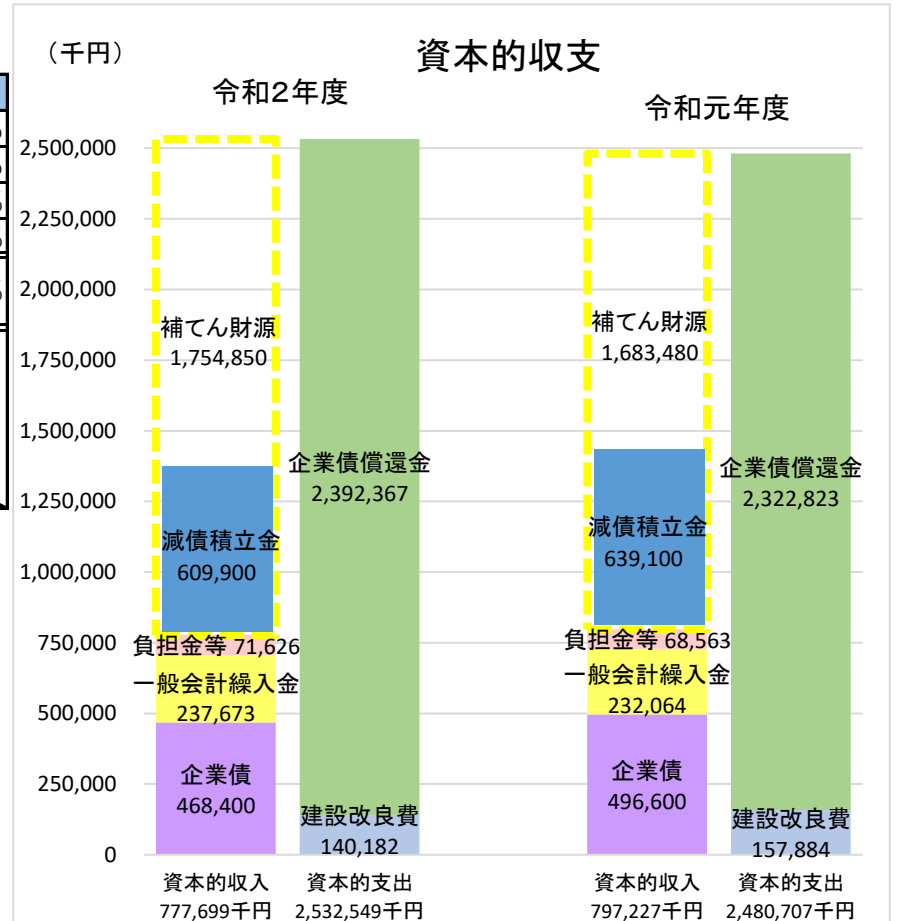
資本的収支	令和2年度	令和元年度	増減	増減率
資本的収入(a)	777,699	797,227	△ 19,528	△ 2.4%
うち資本費平準化債	362,100	363,600	△ 1,500	△ 0.4%
資本的支出(b)	2,532,549	2,480,707	51,842	2.1%
うち企業債償還金	2,392,367	2,322,823	69,544	3.0%
資本的収支不足額(a)-(b)	△ 1,754,850	△ 1,683,480	△ 71,370	4.2%
上記補てん財源				
消費税資本的収支調整額	0	1,597		
損益勘定留保資金(※1)	1,144,950	1,042,783		
減債積立金	609,900	639,100		

資本的収入は7億7,769万9千円で、資本費平準化債を3億6,210万円借り入れますが、下水道事業債の借入額が減少するため、1,952万8千円の減額を見込みます。

資本的支出は25億3,254万9千円で、建設改良費が減少しますが、企業債償還金の増加により、5,184万2千円の増額を見込みます。

資本的収支不足額17億5,485万円は、損益勘定留保資金11億4,495万円、減債積立金6億990万円の取り崩しで補てんします。

(※1) 損益勘定留保資金
施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



(参考) 一般会計繰入金収入額の比較

(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
一般会計繰入金合計	1,992,889	2,037,125	△ 44,236
収益的収入	1,755,216	1,805,061	△ 49,845
資本的収入	237,673	232,064	5,609

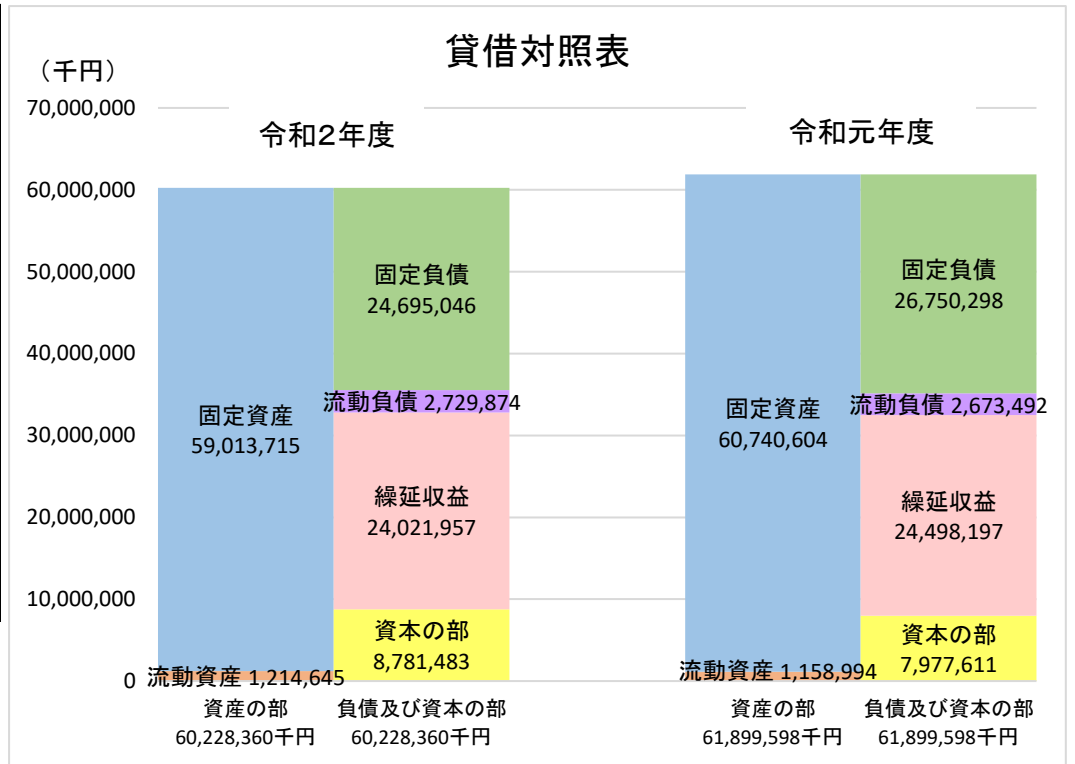
※1,755,216 = 営業収益1,805 + 営業外収益1,753,411

4 予定貸借対照表 (予算書 54~55ページ)

財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。
(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
資産	60,228,360	61,899,598	△ 1,671,238
固定資産	59,013,715	60,740,604	△ 1,726,889
流動資産	1,214,645	1,158,994	55,651
うち現金	1,094,825	1,035,067	59,758
負債	51,446,877	53,921,987	△ 2,475,110
固定負債	24,695,046	26,750,298	△ 2,055,252
うち企業債	24,695,046	26,750,298	△ 2,055,252
流動負債	2,729,874	2,673,492	56,382
うち企業債	2,443,176	2,387,195	55,981
繰延収益	24,021,957	24,498,197	△ 476,240
資本	8,781,483	7,977,611	803,872
資本金	7,146,173	6,402,773	743,400
剰余金	1,635,310	1,574,838	60,472
資本剰余金	397,448	397,447	1
利益剰余金	1,237,862	1,177,391	60,471
負債+資本 計	60,228,360	61,899,598	△ 1,671,238

企業債の償還額が借入額を大きく上回るため、企業債残高は271億3,822万2千円となり、19億9,927万1千円減少する見込みです。また、企業債残高が負債合計の53%近くを占めています。

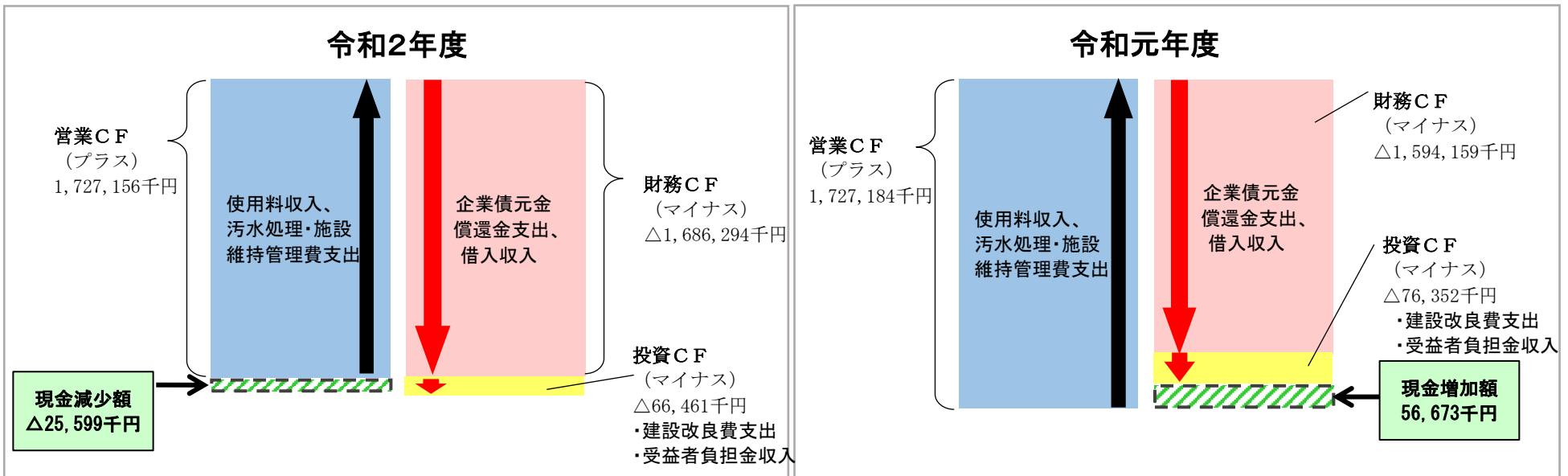


5 予定キャッシュ・フロー計算書 (予算書 42ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「営業活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。営業CFでは、主たる営業活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。投資CFでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常は、マイナスとなります。財務CFでは、資金調達や企業債償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合にマイナス、借り入れた場合にはプラスとなります。
(千円)

	令和2年度	令和元年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,727,156	1,727,184	△ 28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 66,461	△ 76,352	9,891
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,686,294	△ 1,594,159	△ 92,135
現金増減額	△ 25,599	56,673	△ 82,272
現金期首残高	1,120,424	978,394	142,030
現金期末残高	1,094,825	1,035,067	59,758

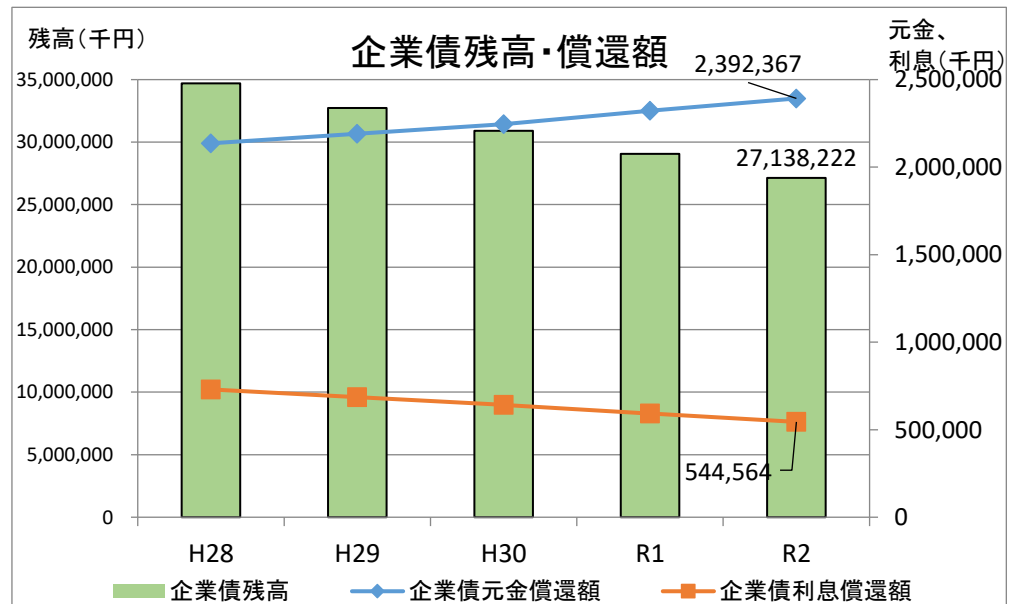
営業活動による現金収入が17億2,715万6千円で、順調な経営状況を見込みます。投資活動による現金支出は6,646万1千円で、犀川安曇野流域下水道事業にかかる負担金等を支出します。財務活動による現金支出は16億8,629万4千円で、企業債の償還金を支出します。現金の期末残高は、10億9,482万5千円となる見込みです。



6 企業債

	令和2年度	令和元年度	増減
借入額	468,400	496,600	△ 28,200
うち資本費平準化債	362,100	363,600	△ 1,500
企業債元金償還額	2,392,367	2,322,823	69,544
企業債利息償還額	544,564	595,854	△ 51,290
企業債年度末残高	27,138,222	29,137,493	△ 1,999,271

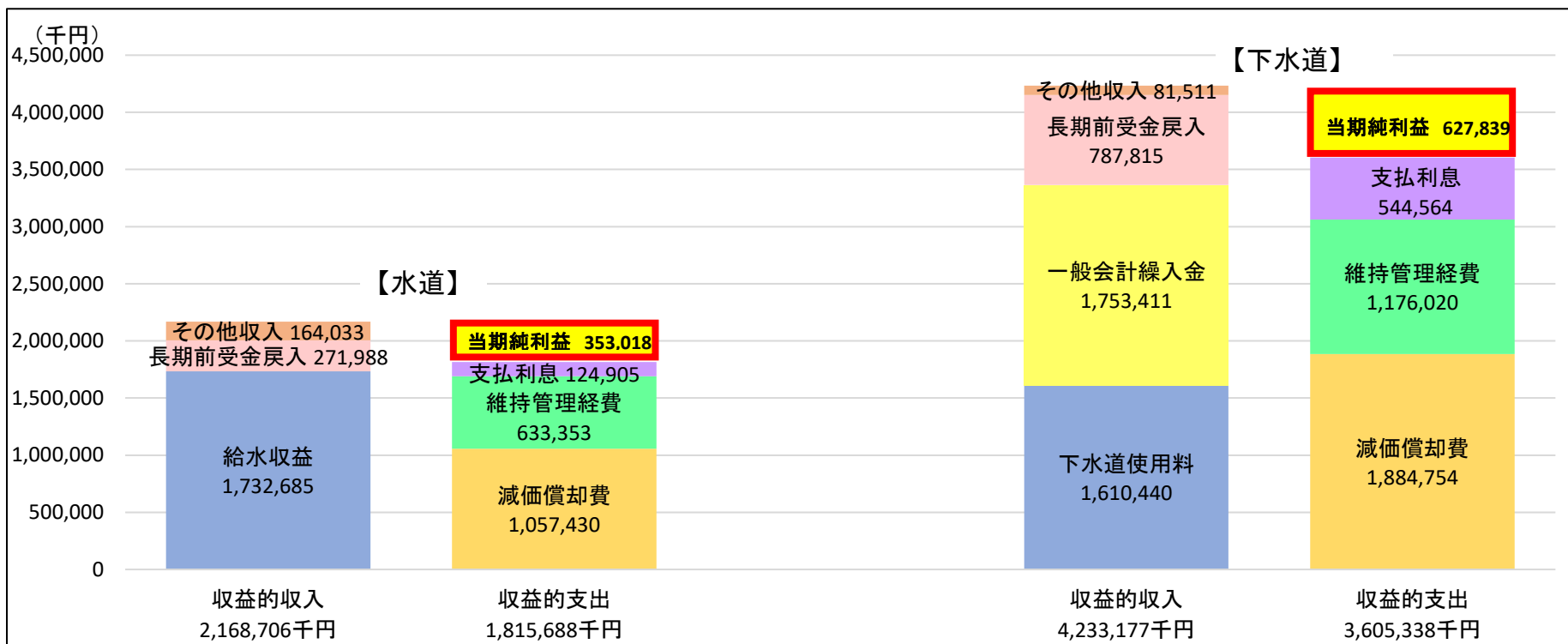
令和2年度は、下水道事業債1億630万円と、資本費平準化債3億6,210万円の借入を予定しています。また、23億9,236万7千円の元金償還を予定しており、年度末の企業債残高は271億3,822万2千円となる見込みです。



Ⅲ 水道事業・下水道事業の比較

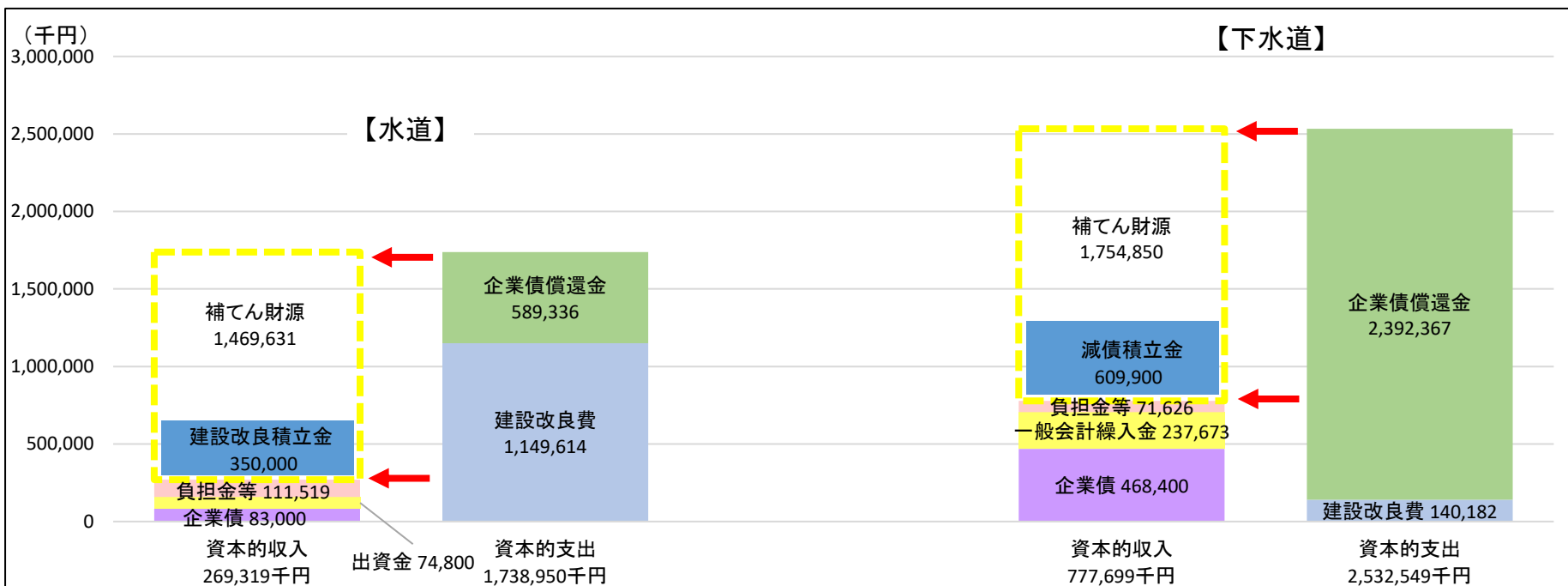
1 収益的収支(予定損益計算書)

水道事業では、給水収益で費用のほとんどを賄える見込みですが、下水道事業では、使用料収入だけでは費用全体の4割程度しか賄うことができない見込みです。下水道事業の経営には、一般会計から基準に基づく繰入金の収入が不可欠であることが分かります。



2 資本的収支

2事業とも施設の整備等に係る財源の不足が会計上の仕組みにより発生します。水道事業は、過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金(減価償却費等)や建設改良積立金などにより不足を補てんし、下水道事業は、過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金や減債積立金などにより不足を補てんします。



3 予定貸借対照表

財政状態を比較すると資産、負債ともに水道事業は下水道事業の4割程度で、事業規模の違いがよく分かります。2事業とも建設改良費の財源として企業債の借入れを行いながら、償還していく予定です。

